

第2 年表でたどる10年

1 年表

平成	西暦	農業研究センターのあゆみ	社会・農政の動き
20	2008	試験研究構想（H19年～H23年）を策定	「くまもと地産地消推進県民条例」の施行 耕作放棄地対策の推進強化
21	2009		花粉交配用ミツバチ不足が問題化
22	2010		くまもと農業経営塾の開講 「熊本県食料・農業・農村計画」の策定
23	2011		3/11 東日本大震災 3/12 くまモン誕生（九州新幹線全線開業の日） 阿蘇あか牛草原再生事業スタート
24	2012	100周年記念行事、記念誌発刊 モニター農家制度開設 試験研究構想（H24年～H28年）を策定	熊本広域大水害 「森のくまさん」食味ランキング日本一
25	2013		阿蘇地域世界農業遺産認定 くまもと県南フードバレー推進協議会設立 全国豊かな海づくり大会 （天皇皇后両陛下下行幸啓）
26	2014	県南フードバレー構想に基づき、い業研究所にアグリビジネスセンターが設置され、アグリビジネスの支援及び県南フードバレー推進を強化	消費税5%から8%へ 県内で高病原性鳥インフルエンザ発生
27	2015		「熊本県地下水と水を育む農業推進条例」施行 台風、16年ぶりに県内上陸（台風15号）
28	2016	い業研究所にいぐさ普及指導室を設置	4/14,16 熊本地震発生 「熊本復旧・復興4カ年戦略」の策定 「熊本県食料・農業・農村計画」の策定 県内で高病原性鳥インフルエンザ発生
29	2017	い業研究所をアグリシステム総合研究所に名称変更、生産情報システム研究室を 試験研究構想（H29年～H32年）を策定	スマート農業への取り組み加速
30	2018		（国）米の生産数量目標の配分を廃止、 主要農作物種子法の廃止 環太平洋パートナーシップ（TPP）協定発効

注）品種育成は種苗法による登録年度

2 熊本県農業研究センターの施設整備

平成元年4月に熊本県農業研究センターは発足したが、昭和61年度から平成5年度にわたり施設整備を行った。その後、施設改修や新たな施設整備も行われてきた。

平成20年度以降の施設整備等の主な状況は、以下のとおりである。

(1) 平成23年度

緊急経済対策・地域活性化交付金「住民生活に光を注ぐ交付金」及び「きめ細かな交付金」を活用し、各研究所の施設改修事業を実施した。また、併せて、備品の購入も行った。

<平成22年2月補正>

施設改修事業

住民生活に光を注ぐ交付金(268,222千円)

きめ細かな交付金(48,940千円)

備品購入(83,964千円)

(2) 平成25年度

国の平成25年度補正予算「好循環実現のための経済対策」に伴う本県の元気づくり基金を活用して、施設整備を行った。

<25年6月補正分>

ア 農産園芸研究所 遺伝子工学実験施設

(次世代型水稻品種育成加速化事業)

遺伝子工学実験施設 143㎡(75,162千円)

穀物収穫乾燥調製施設(ハウス)(6,300千円)

低温貯蔵庫(7,665千円)

イ 農産園芸研究所 小型複合環境制御施設

(次世代型ハウス環境制御システム確立事業)

小型複合環境制御施設 72㎡×12棟(251,925千円)

(6m×12m 軒高2.5m硬質プラスチックハウス)

ウ 畜産研究所 ドナー牛舎施設

(未来を拓く熊本ブランド和牛(あか牛、黒牛)種雄牛作出事業)

ドナー牛舎 432㎡(138,905千円)

<平成25年9月補正分>

エ い業研究所 フードバレーアグリビジネスセンター整備事業

アグリビジネスセンター 延床面積1,134㎡(635,984千円)

うち備品費(190,050千円)

小型複合環境制御施設 72m²×4棟(82,800千円)

オ 果樹研究所 複合環境制御施設

(プレミアムデコポン生産システム確立事業)

複合環境制御施設 192m² ×5棟(80,000千円)

カ 草地畜産研究所 草地畜産研究棟

(草地再生・草地畜産研究所整備事業)

放牧技術研究棟 施設面積678m²(274,243千円)

(3) 平成26年度

企画調整部情報課 研究高度化情報基盤整備事業

農舎等15か所への有線LAN及び畜産関係(乳用牛、豚分娩、孵卵舎環境)監視システム無線LAN整備(24,884千円)

(4) 平成28年度

平成28年4月の熊本地震により、茶業研究所や果樹研究所等で研究本館の内外壁の損壊や分析装置等研究備品の破損が多数見られた。

一方、本場では、建物自体の損傷は少ないが、分析機器の破損による精密試験の遅延や用水の濁りによる家畜の飼養管理、搾乳等に大きな支障を来すこととなった。

茶業研究所：大型製茶試験棟改修、ガラス温室(1棟)建替

高原農業研究所：ガラス温室(2棟)建替

い業研究所：本館・実験棟改修

果樹研究所：本館改修

<平成28年5月補正分>

施設復旧事業(652,974千円)

備品整備(20,129千円)

<平成28年6月補正分>

施設復旧事業(247,652千円)

備品整備(24,000千円)

(5) 平成29年度～

地方版総合戦略に基づく地域拠点づくりの事業を行う。対象となる施設等について重要業績評価指標(KPI)の設定を行い、また、地域再生法に基づく地域再生計画を作成する。

＜平成28年12月補正 地方創生拠点整備交付金＞
 （県事業名：次世代農業ローカルイノベーション創出事業）

整備する施設等	内容	新設・改修の別	事業費(千円)
茶業研究所			
新製茶ハイブリット製茶試験棟新築工事	てん茶及び紅茶製造機、播青機を整備 面積475㎡	新設	202,545
備品購入	ほ場観測・計測器、光合成測定器他2件		28,361
総額			240,123
高原農業研究所			
穀物乾燥・貯蔵庫新築工事	米、麦、大豆等穀物の乾燥・貯蔵庫の建設 面積164㎡	新設	20,142
穀物乾燥施設新築工事	米、麦、大豆等穀物の収穫後の掛け干し 面積105㎡	新設	14,354
野菜栽培ハウス新築工事	トマト等夏野菜の栽培試験 面積540㎡(6棟)	改修	17,270
予冷施設	夏秋野菜の鮮度保持試験	新設	1,404
育苗温室フィルム交換等業務	野菜等の育苗ハウス	改修	12,290
備品購入	食味成分分析装置、味度メーター他2件		7,249
総額			79,832
アグリシステム総合研究所			
複合環境施設新築工事	施設内環境を制御できるハウス 面積288㎡	新設	42,930
備品購入	ハイパスベクトルカメラ、画像編集ソフト他2件		9,821
総額			58,302

整備する施設等	内容	新設・改修の別	事業費(千円)
果樹研究所			
組織培養実験室クリーンルーム交換等業務	カンキョウ育種実験室の機能強化	改修	4,893
組織培養実験室培養庫交換等業務 実生育成用培養庫	カンキョウ実生の育成	新設	4,536
温室ハウス制御盤機器等交換業務	一次選抜実生養成に使用するガラス室の改修	改修	1,944
デコポンハウスドリッピングかん水装置設置工事	加温デコポンハウスにおける養水分制御	新設	874
ヒートポンプ・ソーラーシステム設置工事	加温デコポンハウスの温湿度管理	新設	40,058
ドラフトチャンバー交換等業務	土壌分析室の機能強化(電源増設)	改修	4,871
気象観測装置改修業務	継続観測のための気象観測部品交換等	改修	1,988
冷蔵冷凍施設交換等業務	鮮度保持、貯蔵施設の機能強化	新設	3,402
定温室クリーンルーム交換等業務	病害実験室の機能強化	改修	4,558
備品購入	卓上走査型電子顕微鏡、ICP発光分析装置他1件		13,468
総額			80,589
全体総額			459,182

＜平成29年2月補正 地方創生拠点整備交付金＞

整備する施設等	内容	新設・改修の別	事業費(千円)
農産園芸研究所・生産環境研究所			
環境制御施設機能強化工事	温室を被覆するガラスを硬質プラスチックに張り替え(環境制御機器42機設置等)	改修	502,740
環境データ収集施設・機器工事	データ収集用通信施設の整備	新設	18,998
総額			532,700
畜産研究所			
酪農搾乳牛試験牛舎新築工事	搾乳試験牛の飼養管理施設(自動搾乳ロボット等整備)、面積 1,134㎡	新設	297,588
牛舎付帯工事(造成)	盛土2,500㎡、整地1,153㎡		20,240
既存搾乳牛舎改修工事	自給飼料の調整施設	改修	8,640
精液調整室新築及び種豚舎改修工事	精液の調整施設(75㎡)及び種豚の専用精液採取室	新設・改修	36,242
備品購入	画像解析機器、検体の処理及び保存機器等14件の購入		8,530
直接検定豚舎及び選抜豚舎改修工事	直接検定豚舎は、開放豚舎をウインドレス豚舎に改築	改修	77,760
自動飼料摂取量・増体記録システム	選抜豚舎に群飼育豚の飼料摂取量・体重を自動で計測するシステムを設置		25,920
鶏舎及び鶏糞処理施設改修工事	鶏舎屋根及び防鳥ネット等の整備(10棟) 鶏糞処理機械の整備	改修	125,749
鶏糞飼料外配送ライン・バーンクレーン新設工事	飼料の搬送装置 鶏糞を自動で運搬車に積込むシステム	新設	51,516
総額			708,638

整備する施設等	内容	新設・改修の別	事業費(千円)
草地畜産研究所			
リモート家畜管理システム施設新築工事	夜間監視用 面積 120㎡	新設	31,435
リモートシステム設置工事	畜舎WiFi化、データ通信施設の整備	新設	15,072
備品購入	超音波画像診断装置、ドローン、パソコン		3,216
肉用牛等繁殖技術研修施設新築工事	面積 253㎡	新設	101,183
既設解体撤去工事	旧所長宿舎及び職員宿舎		8,748
総額			179,860
アグリシステム総合研究所			
長期貯蔵技術研究棟新築工事	研究施設 面積 245㎡	新設	103,680
長期貯蔵技術研究棟施設工事	人工気象室3室及び恒温恒湿室5室	新設	89,748
備品購入	品質評価分析装置、センシング装置他6件		14,006
総額			215,404
全体総額			1,636,601

(6) H30年度

熊本県農業研究センター空調設備改修工事（センター本部関係）
 （192,635千円）

3 モニター農家制度

モニター農家制度は、生産現場からの意見を研究に反映し、研究期間を短縮して研究成果の実用性、普及性を高め、より効果的・効率的な試験研究を実施することを目的に平成25年度から実施している。

(1) これまでの主な成果

ア 品種特性評価：特性がより明確になり、品種登録出願までの期間がスピードアップ

(酒米「華錦」、イチゴ「熊本V S O 3」) (平成26年度 新しい技術)

イ 適応性検証：実証結果を栽培マニュアルに反映

(カラー「熊本F C O 1」「熊本F C O 2」) (平成25年度 新しい技術)

ウ 技術検証：所内試験の評価と生産現場の実情を総合的に評価し成果に反映

(エアー送風式内張2層化) (平成26年度 新しい技術)

エ 技術検証：褐毛和種繁殖農家で、冬期間において阿蘇産牧草を主体とした繁殖用発酵 TMR の給与実証を行い、発育や繁殖成績に影響がないことを確認

(平成30年度 成果情報)

(2) 予算額

平成25年度	1, 451千円	平成26年度	1, 451千円
平成27年度	1, 451千円	平成28年度	1, 376千円
平成29年度	805千円	平成30年度	805千円
平成31年度	805千円		

4 大学との連携状況

(1) 東海大学

- ア 平成18年3月に学術研究交流協定を締結し、平成23年4月に再締結。
- イ 協定締結から平成30年度までに取り組んだ共同研究の課題数は57（継続分も含む）。
- ウ 平成27年度からは「熊本県農業研究センター研究報告」の査読を実施。
- エ 年1回、輪番制で学術研究交流会議を開催し、共同研究や研究報告等交流促進事業の検討、評価を実施。
- オ 平成28年度の熊本地震により甚大な被害を受けた東海大学農学部からの支援要請を受け、県と覚書を締結し、学生の講義、実習等の支援を行った。

<今までの主な共同研究課題>

- イオンビーム及び培養等によるイチゴの有用個体の作出
（平成22年度～27年度 農産園芸研究所）
- 熊本県特産家畜等の肉質に関する組織学、科学的評価
（平成18年度～ 畜産研究所）

<共同特許>

- スフィンゴシンを含有する昆虫病原糸状菌発芽促進剤
（平成25年7月特許登録）

(2) 熊本県立大学

- ア 平成21年2月に包括協定を締結。
- イ 県立大学の「地域おこしスタートアップ事業（旧地域貢献研究事業）」等を活用して共同研究等を実施。協定締結から平成30年度までに取り組んだ共同研究の課題数は23。
- ウ 県立大学の「新熊本学：熊本の生活と環境」に特別講師を派遣。

<今までの主な共同研究課題>

- 高品質あか鶏「天草大王」の新系統作出技術の確立と遺伝子情報を活用した食味性の向上
（平成27年度 畜産研究所）
- 熊本県産トマトの食味、機能性成分の向上技術開発に関する研究
（平成22年度 生産環境研究所）

(3) 九州大学

- ア 平成25年2月に学術研究交流協定を締結。
- イ 協定締結から平成30年度までに取り組んだ共同研究の課題数は7（継続分も含む）。
- ウ 年1回、輪番制で学術研究交流協議会を開催。熊本県農業研究センターの研究課題に関連した研究手法等について意見交換を実施。

<今までの主な共同研究課題>

大規模施設における葉面気流環境の時空間最適設計によるトマト増収
省エネ生産技術

(平成28年度～平成30年度 アグリシステム総合研究所)

いぐさの機能性成分の生産・製造方法の確立

(平成28年度～平成31年度 [令和元年度] アグリシステム総合
研究所)

(4) 熊本大学

ア 平成31年2月に学術研究交流協定を締結。

イ 現在、草地畜産研究所及びアグリシステム研究所において、共同研究
等を実施。

ウ 令和元年9月～10月にかけて、草地畜産研究所の研究員1名が交流研
究員として熊本大学医学部で研修を受講。

<今までの主な共同研究課題>

I C Tと放牧、TMRセンターを活用した省力・低コスト肉用繁殖牛飼養
管理システムの実証研究

(平成31年度～令和3年度草地畜産研究所) 他1